

書 写

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力が育成されるよう工夫されているか。
	(5) 硬筆と毛筆を関連付けて学習を進めることができるよう工夫されているか。
	(6) 硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

III 具体項目

書写

観点		発行者	東 書	学 図	教 出	光 村	日 文
1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	(1) 成目指「教科の特質に 成指「教育の人間像」の なす「育」の達成に資する っている「育」の達成に資する 内容、教育の目的、教育の 構が及	・「文字のいずみ」で、我が国の伝統的な言語文化に関する言葉や文章を書いたり、コラムを読んだりすることで、伝統と文化、平和を大切にする心を育むことができるよう配慮されている。	・「平和」や「大切な命」など相手を意識して書く題材を取り上げることで、いろいろな人や社会とのかかわりの中で生きる自分を想起し、「共に生きる」態度を養うことができるよう配慮されている。	・4年では、題材として「平和」や、様々な国のあいさつ表記を取り上げることで、世界の国々への理解を深めながら学習できるよう配慮されている。	・3～6年では、漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を設けることで、文字への興味・関心を高め、伝統と文化を大切にする心を育むことができるよう配慮されている。	・環境や福祉などに関する題材を数多く提示することで、現代的課題への知識を深めたり、他者を尊重する心情を養ったりすることができるよう配慮されている。	
	(2) 然ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然やふるさとへの思いを表現することで、ふるさとへの関心を深めることができる。	・3年では、筆・和紙・硯・墨ができるまでが解説されており、対馬市の特産品である若田石硯と関連させることで、本県の文化への関心を高めることができる。	・4年では、硯ができるまでが解説されており、対馬市の特産品である若田石硯と関連させることで、本県の文化への関心を高めることができる。	・4年では、さまざまな郷土かるたや百人一首が示されており、ふるさとへの関心や、本県の文化を尊重する態度を養うことができる。	・5年では原爆に関する新聞記事に「長崎市」という記述があり、4年では、硯ができるまでが解説されており、対馬市の特産品である若田石硯と関連させることで、本県の文化への関心を高めることができる。	・2年では、「ほたる」について書かれた絵日記を取り上げられており、自然やふるさとへの思いを表現することで、ふるさとへの関心を深めることができる。	

Ⅲ 具体項目

書写

観点	発行者	東 書	学 図	教 出	光 村	日 文
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(1) よう基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一単元一つ、文字を整えて書くためのきまりとして「書写のかぎ」を示し、単元のねらいを明確化することで、基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されている。 1、2年の巻末に「水書用紙」が添付されており、毛筆による運筆や筆圧のかけ方を体感することで、硬筆での適切な書字動作が身に付くよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き込み欄が充実しており、全単元において実際に書くことで復習・まとめが行える構成に統一することで、学習内容を確実に習得されるよう工夫されている。 1年のひらがなの学習においてマスをもつ4分割して提示することで、始点等の位置や文字の間隔等を理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運筆を「とん・すうっ・びた」などの音声で表したり、空書きや指でなぞる活動を提示したりすることで、運筆についてリズムよく体感しながら理解できるよう工夫されている。 1年の巻末に「水書用紙」が添付されており、毛筆での運筆を楽しむながら力の入れ加減を知ること、硬筆での適切な書字動作を身に付けられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年には、小学校で学習する書写の要素をまとめた「書写ブック」を設けることで、書写で身に付けた力を自覚し、各教科や日常生活で生かすことができるよう工夫されている。 1年巻末の「水書シート」で筆を使った書字に取り組むことで、終筆の「とめ」「はね」「はらい」のより確かな理解につなげることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を「①考える→②確かめる→③いかす」の3段階に設定し、流れに沿って学習することで、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くよう工夫されている。 1、2年の巻末に「水書きシート」が添付されており、水筆での反復練習をすることで、硬筆で適切に運筆する技能が高められるよう工夫されている。
	<p>(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「見つけよう」で、課題を明確にした上で、「書写のかぎ」で身に付けた運筆等の知識・技能をもとに、ねらいとする資質・能力の習得が図られるよう単元構成が工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価を通じた「学習の進め方」を示すことで、対話を通して多様な考え方や意見を相手に伝えるだけでなく、自らの書字技能にも還元し、表現できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～6年では、各単元に試し書きとまとめ書きをする欄を設けることで、課題をもって取り組むとともに、自らの学びの変容に気付くことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元に学習活動における要点を「たいせつ」として提示することで、既習内容や課題を意識して学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考える」「確かめる」「生かす」という一連の学習過程を示すとともに、各課題を示すことで、書字の要点に着目して取り組むことができるよう工夫されている。
	<p>(3) 主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう工夫されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の学びをイラストマップにして掲載し、児童が学習内容や学習過程について見通しをもつことで、主体的に学ぼうとすることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「たしかめる」「考える」「生かす」という学習過程を示すことで、自らの課題を明確にして、その課題の解決に向けて主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4、6年の課題選択教材や全学年の「学習の進め方」を設けることで、児童が課題をもつとともに、課題解決の方策を理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に字形の違いを比較したり、読みやすさについて考えさせたりする教材を提示することで、課題を発見し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にガイドンスペーを掲載することで、児童自身が教科書を用いた学習の手順や方法を知り、主体的に学習する力を身に付けることができるよう工夫されている。

III 具体項目

観点	発行者	東 書	学 図	教 出	光 村	日 文	
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(4) 各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできるよう工夫されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に「生活に広げよう」「学びを生かそう」などを設け、各教科で取り上げられる言語活動や文学作品を提示することで、日常生活や他教科での学習活動への活用が図られるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、葉書、原稿用紙など様々な文字表現を例示することで、縦書き、横書き、ローマ字などを学校生活、日常生活に活用することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」を設け、日常生活や他教科の学習活動に生かせる内容を提示することで、教科横断的な学習ができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に「生活と書写」「国語の広場」として、言語活動及び生活場面につながる題材を設定することで、日常生活や他教科での学習活動への活用が図られるよう工夫されている。 		
	<p>(5) 硬筆と毛筆を関連付けて学習を進めることができるよう工夫されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年では、題材を淡色で表示することで、運筆を視覚的にとらえることができるよう工夫されている。 1、2年で巻末に水書の学習を取り入れることで、3年以降の運筆能力向上と、毛筆へと系統的に学習を行えるよう工夫されている。 3～6年では、硬筆で課題をつかみ、毛筆で確かめ硬筆に生かすという、一連の学習過程を示すことで、毛筆と硬筆を関連付けられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年では、題材をマスに入れて提示することで、字形を視覚的にとらえ基本的な運筆を身に付けることができるよう工夫されている。 巻末に水書学習を取り入れることで、3年以降の毛筆へと系統的に学習を行えるよう工夫されている。 3～6年では、各単元末に硬筆で書く欄を設け、それを活用することで、毛筆での学習を硬筆に生かすことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年では、点画の重なりや始筆、終筆の位置などを示すことで、基本的な運筆を身に付けることができるよう工夫されている。 1年で水筆学習を取り入れることで、適切に運筆する能力を高め、3年以降の毛筆へと系統的な学習を行えるよう工夫されている。 3～6年では、毛筆学習後に硬筆で確かめる欄を設けることで、両者を関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年では、画の書き方の方向をキャラクターと共に示すことで、基本的な運筆を身に付けることができるよう工夫されている。 1年では、水書学習を取り入れることで、3年以降の毛筆へと系統的に学習できるよう工夫されている。 3～6年では、毛筆を硬筆の基礎ととらえ、毛筆学習後、硬筆課題を設けることで、毛筆での学習を効果的に硬筆に生かせるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年では、運筆を図示することで、児童が基本的な運筆を身に付けることができるよう工夫されている。 巻末に水筆教材を設けることで、3年以降の毛筆へと系統的に学習できるよう工夫されている。 3～6年では、毛筆学習後に硬筆学習のページを設け、充実を図ることで、両者を関連付けて効果的に学習することができるよう工夫されている。 	
	<p>(6) 硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各題材で、毛筆で学習したことを硬筆に生かすよう設定し、手紙の書き方、新聞やリーフレットづくりなど硬筆を用いた学習を例示することで、両者を学ぶことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆の学習後に、硬筆学習につなげる「生かしてかこう」を設け、日常生活における課題や視写を取り入れることで、毛筆と硬筆の分量が適切になるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆学習の前後に、硬筆で書き込む欄を設けるとともに、毛筆学習の後に硬筆学習の題材を配列することで、毛筆と硬筆の分量が適切になるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆で学習した後に硬筆で確認をする学習を設定したり、毛筆で学習したことを硬筆で確かめる「こう筆のまとめ」を設けたりすることで、分量が適切になるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材で硬筆・毛筆で試し書きをする、毛筆で確かめてまとめ書きをする、硬筆で書いてみるという学習の流れを設定することで、毛筆と硬筆の分量が適切になるよう配慮されている。 	

III 具体項目

観点	発行者	東 書	学 図	教 出	光 村	日 文	
<p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長</p>	<p>(1) 文章は、分かりやすく、量ともに豊かな記述内容となっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔かつ児童に問いかけられるような文章表現を用いることで、主体的に考え、理解を深めることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大事などところを取り出して、詳しい説明を入れるとともに、学習のポイントを明記することで、学習内容を理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のポイントを明確かつ端的に示すことで、児童が学習のめあての確認や振り返りを行うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを端的に示すとともに共通のマークを言葉と併記することで、児童が視覚的にとらえ、学習を進めることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを端的に示すとともに共通のマークを言葉と併記することで、児童が視覚的にとらえ、学習を進めることができるよう工夫されている。 	
	<p>(2) 写真、挿絵、図表など、学習意欲を高め、連続した学習効果に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材に2色（朱墨と淡墨）の淡墨図を提示することで、穂先の通り道を視覚的にとらえることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材に2色（朱墨と淡墨）の淡墨図を提示し、連続写真を用いることで、運筆について理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材に2色（朱墨と淡墨）の淡墨図を提示するとともに、ポイントを明記することで、児童が筆圧について理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材では、2色（朱墨と淡墨）の淡墨図や絵を用いることで、穂先の動きを視覚的にとらえることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材では、2色（朱墨と淡墨）の淡墨図や連続写真を用いることで、穂先の動きや筆使いを視覚的にとらえることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆教材では、2色（朱墨と淡墨）の淡墨図や連続写真を用いることで、穂先の動きや筆使いを視覚的にとらえることができるよう工夫されている。
	<p>(3) レイアウトや色紙、製本等について、紙質、色紙、文字の大きさ、挿絵の配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のサイズを半紙の縦横比率に合わせて、横広にすることで、半紙における文字の配置の理解につなげることができるよう配慮されている。 3～6年では、左端にインデックスを設けることで、書写用語や既習事項について、必要に応じて確認することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2文字以上の毛筆教材の手本を原寸サイズで提示することで、文字の大きさや位置を視覚的にとらえ、学習しやすくなるよう配慮されている。 キャラクターや挿絵を淡い配色にすることで、文字や写真などが見やすくなるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年では、指なぞりの文字は太め、手本やなぞり書きの文字は細めにするすることで、児童が段階的に理解できるよう配慮されている。 3～6年では、毛筆の教材に硬筆で書く欄を設けることで、毛筆と硬筆の関連付けが図られるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のポイントをイラストや図で分かりやすく示すことで、児童が直感的に理解できるよう工夫されている。 6年では、全学年の学習のまとめとして「書写ブック」を添付することで、小学校の学習事項を確認することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆教材では、手本を黒字にし、図の大きさや配色、補助線の示し方を統一することで、児童が学習の要点を理解できるよう工夫されている。 毛筆教材では、手本と解説を別に示す紙面構成にすることで、児童が学習事項を段階的に理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆教材では、手本を黒字にし、図の大きさや配色、補助線の示し方を統一することで、児童が学習の要点を理解できるよう工夫されている。 毛筆教材では、手本と解説を別に示す紙面構成にすることで、児童が学習事項を段階的に理解できるよう工夫されている。